



モーツァルト室内管弦楽団 第124回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 124. Regulärkonzert

2009年
〈生誕200年記念メンデルスゾーン特集〉第1回

2008年4月29日 (火・祝) 午後2時 ■ いずみホール

Dienstag, 29. April, 2008, 14:00Uhr. *Izumi Hall*, Osaka

- 主催：モーツァルト室内管弦楽団、毎日新聞社、大阪芸術祭協会
- 協賛：いずみホール〔財団法人 住友生命社会福祉事業団〕
- 後援：大阪府、大阪市、大阪商工会議所、毎日放送、スポーツニッポン新聞社
- マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail:artists@gol.com

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 Tel 06-6135-0503



モーツァルト室内管弦楽団 第124回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester/124. Regulärkonzert

2008年4月29日(火・祝) 2:00pm. ●いずみホール

Dienstag, 29. April, 2008. 14:00Uhr. ● *Izumi Hall*, Osaka

^{2009年}
〈生誕200年記念メンデルスゾーン特集〉第1回

メンデルスゾーン (1809-1847)

Felix Mendelssohn Bartholdy (1809-1847)

序曲《フィンガルの洞窟(ヘブリディーズ諸島)》作品26

Ouvertüre „Die Hebriden / Fingal's Cave“ Op.26

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

Konzert e-moll für Violine und Orchester Op.64

I. Allegro molto appassionato

II. Andante

III. Allegretto non troppo - Allegro molto vivace

* * *

交響曲 第3番 イ短調 作品56 《スコットランド》

Sinfonie Nr.3 a-moll Op.56 „Schottische“

I. Andante con moto - Allegro un poco agitato

II. Vivace non troppo

III. Adagio

IV. Allegro vivacissimo - Allegro maestoso assai

ヴァイオリン：谷本華子

Violine: Hanako Tanimoto

管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団

Orchester: Mozart-Kammerorchester

コンサートマスター：釋 伸司

Konzertmeister: Shinji Shaku

指揮：門 良一

Dirigent: Ryoichi Kado

〈生誕200年記念メンデルスゾーン特集〉第2回

2009年7月の予定

・交響曲 第4番 イ長調《イタリア》・ピアノ協奏曲 第1番 ト短調・劇音楽《真夏の夜の夢》(全曲)



門 良一 ●指揮

Ryoichi Kado, Conductor

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。

現在、NHK大阪文化センター、同神戸文化センター「モーツァルトを聴く」講師。京都産業大学教授。



谷本華子 ●ヴァイオリン

Hanako Tanimoto, Violin

兵庫県立西宮高校音楽科を卒業後、桐朋学園大学音楽学部ソリストディプロマコースに入学。ロームミュージックファンデーションの奨学金を得てカナダ・ブランドン大学へ留学。日本及びカナダ各地でリサイタルを行い好評を得る。全日本学生音楽コンクール中学校及び高校の部でそれぞれ全国第1位、カナダナショナルヴァイオリンコンクール第2位、シェーンヴァイオリンコンクール第1位、他多数受賞。ソリストとして、国内のオーケストラはもとより、サンクトペテルブルクシティフィルハーモニック、国立ブルガリア室内オーケストラ及びエドモントンシンフォニーオーケストラ等とも共演。神戸ユース賞、ゆずりは賞、神戸灘ライオンズクラブ音楽賞、大阪府「21世紀協会賞」、大阪府知事賞、音楽クリエイティブクラブ賞及び他多数の受賞を重ねる。NHK-FM「名曲リサイタル」にも出演。また、2000年にはサントリー株式会社より1752年製作のトマーソ・カルカッシを無償貸与される。現在、ソロや室内楽を中心に長岡京室内アンサンブルのメンバーとしても活躍する他、兵庫県立西宮高校音楽科非常勤講師として後進の指導にも努める。



モーツァルト室内管弦楽団 Mozart - Kammerorchester

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、37年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケ

ストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。'91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠として定期演奏会を、また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では'88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス ('85、'87年)、シプリアン・カツァリス ('93、'94年)、ペーター・ダム ('83、'86、'88、'98、'00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル ('86年)、ライナー・キューヒル ('90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、'93年には堺シティオペラとの協力による「モーツァルト・オペラシリーズ」を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。

モーツァルト室内管弦楽団 / 出演メンバー

コンサートマスター ● 釋 伸司

第1ヴァイオリン	釋 伸司	川島 多美子	岡尾 有紀	クラリネット	高橋 博
	青野 久美子	池内 美紀	角南 麻里子		門 小夜子
	中川 衛子	原田 潤一	三宅 香織	ファゴット	佐伯 利之
	谷口 朋子	北村 奈美	南出 信一		吉本 文子
	大西 秀朋	幣 晴代	中村 公美	ホルン	垣本 昌芳
	菊池 優理	道幸 明美	北田 由美		蒲生 絢子
	奥野 啓子	佐份利 祐子	大江 浩志		永武 靖子
	中野 瑞己	上野 亮子	久保田 裕美	トランペット	垣本 奈緒子
第2ヴァイオリン	本多 智子	三上 哲	伊賀上 文子		大西 由起
	清水 めぐみ	日野 俊介	福田 淳	ティンパニ	福田 裕司
					福井 鈴

メンデルスゾーンの風景

肖像画で見る女性的で柔和な、いかにも裕福な育ちを思わせる顔と、ちょっと聴くと美しいがセンチメンタルなその音楽の印象（ヴァイオリン協奏曲の出だしがその典型）とで、メンデルスゾーンはかなり損をしている気がする。少年期から演奏と作曲の両面で活躍し「神童」とみなされたこと、作品の数が多く多岐にわたっていること、ヨーロッパを広く頻繁に旅行したこと、38年という短い生涯であったことなどでモーツァルトのイメージと重なるところが多い。だが、メンデルスゾーンがモーツァルトと違うところは、デュッセルドルフ市音楽監督、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス・オーケストラ指揮者、ベルリン芸術アカデミー楽長、ライプツィヒ音楽院院長などという要職を歴任し、演奏・作曲以外にそういった組織における管理・運営・企画、そして教育といった方面においても偉大な業績を残したことである。具体的には、大バッハの「マタイ受難曲」を100年ぶりに蘇演したこと、オーケストラにおける指揮者という職務を確立したこと、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの交響曲など過去の名曲をオーケストラのレパートリーとして定着させたこと、シューベルトの最後の交響曲「ザ・グレート」（シューマンが発見）を初演したこと等が挙げられる。これらのことはメンデルスゾーンの芸術の本質を考える時、決して見過ごすことはできない。

メンデルスゾーンの音楽の特徴としては、メロディの美しさと形式が整っていることがよくいわれる。たしかに前期ロマン派の作曲家の中ではハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンのいわゆる〈ウィーン古典派〉の影響を最も強く受けているといえよう。その点では12歳年長のシューベルトと似ているのだが、シューベルトとメンデルスゾーンでは音楽の時間感覚がまるでちがう。メンデルスゾーンにはシューベルトの悠揚迫らぬ長大さというものがない。メンデルスゾーンの音楽の構造は極めて微細で緻密で、いうならば贅を尽くした宝石細工のようなものである。

だが、そのような見方だけでは彼の音楽の一面しか見ていないことになる。表面的には極めて古典的なたたずまいに見えるが、その音楽には大いなる文学性ないしは標題性が包含されている。本日の演目である《フィンガル》や《スコットランド》を聴けば、北の荒海や廃墟と化した古城といったスコットランドの風物が髣髴とするだけでなく、単なる風景描写を越えた普遍的なロマン的感情が強く呼び起こされるのである。

メンデルスゾーンの演奏の難しさは、この形式の美しさとロマン性とのバランスにある。歌うべきところは大いに歌いながらも、過度のセンチメンタリズムに陥ることなく、力強く整然と演奏すべきであろうと思う。そのようにしてはじめてメンデルスゾーンの男のロマンが描けると思うのである。

序曲《フィンガルの洞窟》

メンデルスゾーンの主たる活動の場は、ドイツ国内ではベルリン、デュッセルドルフ、ライプツィヒだが、20歳のとき始めて訪れたイギリスが気に入り、また当地からも歓迎されたので、生涯で10回もかの国を訪問している。この曲は最初のイギリス旅行の時訪れたヘブリディーズ諸島（スコットランド

西方に位置する島々)での印象をもとに作られた。ワグナーがこの曲を聴いてメンデルスゾーンを「第一級の風景画家」と評したことはよく知られている。序曲といっても劇作品とは無関係の単独の管弦楽曲だが、のちにリストが確立した「交響詩」というジャンルに分類するのが妥当と思えるほど、標題音楽的な内容を持っている。作曲者は完成後も何度も改訂を行ったので、全部で4つの版があり、曲名も《孤島》、《ヘブリディーズ諸島》、《フィンガルの島々》などと変遷している(フィンガルとは北欧伝説に登場する英雄の名という)。本日の演奏は今日一般的に演奏されている最終版(1832年)に基づいたもので行う。

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調

古今のヴァイオリン協奏曲中、最もよく知られている名曲中の名曲。死の3年前、最円熟期の傑作である。僚友のヴァイオリニスト、F.ダーヴィトに捧げられている。この協奏曲の際立った特徴としては、第1楽章にオーケストラの前奏がなくいきなりヴァイオリンのソロではじまること、第1楽章のカデンツァが再現部の前に置かれていること(通常は再現部の後)、各楽章の間が切れ目なくつながっていること、第3楽章に序奏があることなどが挙げられる。主題の美しさ、表現の振幅が大きくロマン性豊かな曲想の展開、ソロとオーケストラのバランスのよさ等々、すべてが完璧といえよう。なかでも第1楽章冒頭のメロディーの美しさは比類がなく、しかもヴァイオリンでなくてはそれが表現できないものといえる(ためしにこのメロディーをピアノで弾いてみられよ。実に味気ない普通のメロディーに聴こえるであろう)。

交響曲 第3番 イ短調《スコットランド》

メンデルスゾーンの交響曲は全部で5曲である(他に12~14歳の少年期に作られた弦楽合奏のための交響曲が12曲ある)。この5曲を作曲順に正しくならべると、第1番(15歳)、第5番《宗教改革》(21歳)、第4番《イタリア》(24歳)、第2番《賛歌》(31歳)、そして最後がこの第3番《スコットランド》(33歳)となる。順番が狂ったのは番号が出版順に付けられたからである。さて、《スコットランド交響曲》の着想が得られたのは1829年、スコットランドに旅し、廃墟となっていた悲劇の女王メアリーの居城を訪れた時であるという。しかし、その後《イタリア交響曲》に着手したりしたため、完成は遅れて実に13年後の1842年となってしまった。第1楽章には序奏が付いており、廃墟の城や北の海を思わせる悲劇的な激情に満ちている。第2楽章は一転して急速で明るいスケルツォ楽章で、スコットランド民謡を思わせる5音階的なメロディーが使われている。第3楽章は極めてロマンティックなアダージョで、ヴァイオリンやチェロによって抒情的なメロディーがたっぷりと歌われる。中間にある葬送行進曲ふうの部分も大変印象的である。フィナーレは力強いがやはり暗い情熱に支配された音楽である(《イタリア交響曲》のフィナーレに通ずるものがある)が、最後に長調に転じ凱歌をあげるかのように明るく盛り上げて終わる。4つの楽章は間をおかずに続けて演奏するよう指定されている。

会 長 岡 本 道 雄 (京 都 大 学 名 誉 教 授)
 理 事 大 西 正 文 (大 阪 ガ ス 株 式 会 社 相 談 役) 谷 口 安 平 (京 都 大 学 名 誉 教 授)
 森 井 清 二 (関 西 電 力 株 式 会 社 顧 問) 吉 野 泰 生 (住 友 生 命 保 険 相 互 会 社 会 長)
 (50音順)
 顧 問 橋 下 徹 (大 阪 府 知 事 ; 申 請 中) 平 松 邦 夫 (大 阪 市 長)
 伊 藤 郁 太 郎 (大 阪 市 立 東 洋 陶 磁 美 術 館 館 長) 梅 原 猛 (国 際 日 本 文 化 研 究 セ ン タ ー 顧 問)

法人会員 (50音順)

荒川化学工業	住友金属工業	日本通運京都旅行支店	三井住友カード
井上冷熱	住友精密工業	濱田プレス工藝	ワコー
大阪ガス	住友生命保険	林 六	*
関西電力	住友倉庫	福 山 製 紙	日 本 セ ル フ
クオ一ク	ダイキン工業	松下電器産業	
阪野商店	大同ケミカルエンジニアリング	丸 紅	
サントリ一	高 松 建 設	丸 山 サ ー ビ ス	

個人会員 (入会順、敬称略)

松井 繁一	阿部 由美子	馬場 明和	三石 武男	河原 恭子	岩崎 弘一
深田 晴世	中川 泰幸	阪野 俊一	内藤 壽一	平田 修一	岩河 清子
河野 幹雄	石上 豊子	奥田 慶子	小西 信一郎	平田 和子	佐竹 時子
河野 奈津子	村本 孝夫	森 川 泰子	佐野 廣子	松井 とも子	千 宗守子
福岡 隆子	松本 幸道	宮 川 泰子	内田 俊策	得田 栄藏	荒 木 陽子
梅原 一哲	市崎 英二	和 田 暁夫	神 林 恒樹	南 形 昭功	宮 崎 悦朗
石本 三千也	笹川 忠士	桑 名 孝正	岡野 昌津子	平 山 上	栗 原 順子
田村 眞也	緒林 桂子	石 光 正男	岡野 恵津子	村 谷 勝次郎	谷 口 勝昭
竹村 治彦	確 井 昭彦	伏 崎 久子	杉 浦 和子	菱 谷 立宣	完 倉 正信
岸田 克己	確 井 みち子	松 枝 正明	脇 田 修男	足 立 武次	野 口 祐三
梅村 博也	長 井 重龜	松 枝 多加子	多 屋 貞透	東 竹 林 大	野 口 本 武
屋良 卍佐治	桂 小 米 朝門	光 植 田 史子	野 佐 野 雅祥	田 中 忠 八	森 倉 林 正
國友 正文	岸 能 多 豊	植 田 方 安	今 井 隆 子	中 谷 田 紘	小 野 原 清
稲垣 千代子	森 内 達 治	高 杉 弘 章	玉 手 隆 子	豊 奥 野 哲	大 西 理 都
浮田 俊太郎	宮 井 茂 治	川 島 啓 助	鈴 木 宏 明	平 岡 龍 禮	堀 野 正 二
荻野 伊都子	祐 野 尚 秀	川 坂 本 井 司	野 崎 靖 大	平 岡 西 田	中 松 井 基
桑 山 郁	金 定 嘉 也	中 井 武 和子	冠 賀 熙 雄	大 飛 飯 田	松 井 香 代
田 中 喬	中 條 澄 子	中 井 佐 和子	有 佐 野 哲 郎	桐 山 輝 彦	山 本 本 道
天野 康英	中 嶋 允 吉	西 岸 田 孝 之助	吉 本 柳 盛	森 宮 井 芳	山 本 嘉
三浦 信一郎	福 岡 昭 吉	豊 田 成 子	小 柳 盛 隆	宮 井 脇 多	山 本 嘉
水島 敬夫	山 本 次 郎	切 畑 敦 詞	服 部 盛 四郎	森 宮 井 脇 多	山 本 嘉
渡 辺 優 子	菅 正 徳	中 東 富 佐 志	田 中 西 村	塩 垣 一	和 葉
平川 美津子	日 高 穂 助	金 盛 琢 孝	村 西 村		
安藤 邦洋	藤 原 啓 初				
橋本 太三雄	山 本				

会 費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。
 ・法人会員につきましては年会費1口10万円です。
 会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)
 ・ご同伴者は10%割引となります。
 ・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。
 ・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。
 ・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。

(有効期間は入会時より1年間です。)
 随時ご入会いただけます。